

総務企画委員会会議記録

総務企画委員長 麻生 栄作

1 日 時

令和7年1月23日（木） 午前 9時58分から
午前10時40分まで

2 場 所

第3委員会室

3 出席した委員の氏名

麻生栄作、阿部長夫、岡野涼子、嶋幸一、福崎智幸、守永信幸、佐藤之則

4 欠席した委員の氏名

なし

5 出席した委員外議員の氏名

なし

6 出席した執行部関係者の職・氏名

政策企画課長 鈴木辰洋、おおいた創生推進課長 工藤伸仁 ほか関係者

7 会議に付した事件の件名

別紙次第のとおり

8 会議の概要及び結果

(1) 第3期まち・ひと・しごと創生大分県総合戦略（案）について執行部から報告を受け、
質疑応答を行った。

9 その他必要な事項

なし

10 担当書記

議事課委員会班	課長補佐（総括）	秋本昇二郎
政策調査課調査広報班	主任	江川亜美

総務企画委員会次第

日時：令和7年1月23日（木）10：00～

場所：第3委員会室

1 開 会

2 企画振興部関係

10：00～12：00

(1) 閉会中の継続調査

①第3期まち・ひと・しごと創生大分県総合戦略（案）について

(2) その他

3 閉 会

会議の概要及び結果

麻生委員長 おはようございます。皆さんそろったので、ただいまから総務企画委員会を開きます。

本日は、閉会中の継続調査として委員会を開催しました。調査する事項は、第1回定例会で議案が上程される第3期まち・ひと・しごと創生大分県総合戦略の素案について、各党派説明会やパブリックコメント等でいただいた意見をどのように新たな戦略案に反映させたのか、その説明を受けて質疑応答を行い、第1回定例会に向けて議論を深めたいと思います。

それでは、執行部の説明をお願いします。

工藤おおいた創生推進課長 おはようございます。委員の皆様には年始のお忙しい中、貴重なお時間を割いていただき、誠にありがとうございます。

それでは早速、第3期まち・ひと・しごと創生大分県総合戦略（案）について説明します。

まず、先月の第4回定例会における戦略案の骨子の報告からこれまでの経緯についてです。戦略の素案作成後、県議会の皆様への説明と意見交換を皮切りに、年末から年始にかけて市町村はもとより産学金労言などの有識者で構成されるビジョン2024推進委員の皆様、それからパブリックコメントにより一般県民の御意見を伺いました。その結果は全体で49名、延べ125件の御意見を頂戴しています。本日は、これらの中から戦略本文に対する修正意見を踏まえた第3期総合戦略の最終案を説明します。

それでは資料3、第3期総合戦略（素案）に対するご意見の反映についての1ページをお願いします。

なお、お手元に第3期まち・ひと・しごと創生大分県総合戦略（案）の本文と概要を紙資料にて配付しているので、そちらもあわせて御確認いただければと思います。

まず意見の反映についてですが、最初に全般部分です。一つ目は、戦略（案）4ページの中ほどにある【重点課題】の一番上、人口減少の

抑制に向けた若者・女性の呼び込みと定着について、人口が減少していく中でも経済や社会の活性化に向けて、若年層や女性の活躍が求められる。その観点から、人口抑制に向けたとの文言を削除し、地域のさらなる発展に向けた若者・女性の呼び込みと定着としてはどうかとの御意見をいただいています。

若者や女性が活躍できる環境づくりは、これらの方を呼び込み、定着を図る上で大切な視点であることから、御意見を踏まえ人口抑制に向けたとの言葉ではなく、キャリア形成や暮らしの満足度の向上による若者・女性の呼び込みと定着に修正したいと思います。なお、御意見にあった、地域のさらなる発展については、重点課題の3番目、地域の持続的発展と重複するため記載の文案で整理をしています。

二つ目です。戦略（案）6ページの第3章政策体系、政策体系Ⅲの【まち】に記載の暮らしの豊かさについては、政策体系Ⅰ【ひと】とⅡ【しごと】の全てに関係することから、豊かさや安心を実感できる大分県という考え方が非常に重要であり、戦略の中で何らかの表現してほしいとの御意見を頂戴しています。ちなみにこれは前回、麻生委員長からいただいた御意見です。

こちらについては戦略（案）3ページ、第1章はじめにの最終段落と6ページの第3章政策体系の冒頭文章の最終段落に御意見を反映させています。

三つ目は、用語解説を設けてはどうかとの御意見でした。これも意見を踏まえ、巻末に用語解説を設けることとしています。

資料3の2ページをお願いします。

政策体系Ⅰ【ひと】に関する御意見です。一つ目は、戦略（案）11ページの2（2）①ESDの日本語表記の記載についてです。

こちらも巻末の用語解説で対応したいと考えています。

二つ目は戦略（案）16ページの3（3）①

のバリアフリー化に関する記載部分です。

御意見の趣旨を踏まえて、戦略（案）では①に記載の七つの項目の最後に修正し、順番を入れ替えています。

資料3の3ページをお願いします。

政策体系Ⅱ【しごと】に関する御意見です。一つ目は戦略（案）20ページの基本的方向についてです。若年層の流出防止を念頭に置いた、働きがいのある仕事生まれるような産業構造や企業構成を想定したメリハリをつけた記載の御意見です。

こちらについては御意見の趣旨を踏まえて、反映内容（案）に3ページに記載の文言、若者や女性にとってと修正したいと考えています。

二つ目です。戦略（案）23ページの3（2）①産学官連携の強化に関して、二つの取組を追記してはどうかとの御意見です。

御意見の趣旨を踏まえ、3ページの素案への反映内容（案）に記載の二つの取組を追加したいと考えています。

三つ目です。戦略（案）25ページの5（1）①に記載の内容を追記してはどうかとの御意見です。

こちら御意見の趣旨を踏まえて、同様の施策を整理している戦略（案）24ページの政策4（1）④産業を支える人づくりに、反映内容を追記したいと考えています。

資料3の4ページをお願いします。

最後は、政策体系Ⅳ【ひとやものの流れ】に関する意見です。ちなみに、政策体系Ⅲ【まち】に対する修正御意見はありませんでした。

一つ目は戦略（案）43ページの1（1）①広域交通ネットワークの形成に向けた取組の推進4ポツ目の取組に、県民の機運醸成、市町村を追加する御意見です。

御意見を踏まえ、市町村の記載を追記することとしています。なお、機運醸成については3ポツ目で記載しています。

二つ目は観光についてです。戦略（案）48ページの5（2）①の記載について、体験型を追記したらどうかとの御意見です。

こちら御意見どおりの修正にしたいと考え

ています。いただいた御意見を踏まえた戦略素案の修正は以上になります。

なお、修正意見以外にも多くの意見や要望をいただいています。これらの内容については、関係部局としっかりと共有しており、今後の取組にいかしていきたいと考えています。

麻生委員長 以上で説明は終わりました。

これより質疑に入ります。まず、委員の皆様から質疑はありませんか。

福崎委員 それぞれ意見を反映したとのことで、ありがとうございます。反映できなかった部分については、しっかりと各関係部局と連携を取ってというか、それってどこかで我々も見ることができるとですか。こういう意見が出て、こういう考え方の下、今回は反映できなかったと分かるものがどこかに掲載されるんですか。

工藤おおいた創生推進課長 4種類の御意見をいただいています。一つが県議会の皆様方からです。二つ目が市町村の皆様、そして三つ目がビジョン推進委員会の有識者の皆様、四つ目が一般県民からのパブリックコメントの意見です。県議会からいただいた御意見は、特段こういう意見をいただいたのでこうしますとは、今のところ公表するイメージがありませんが、市町村からいただいた御意見は来月、知事と市町村長とで構成している新しいおおいた共創会議の場で、こういう意見をいただいたので、このように対応していると公表する予定です。

ビジョン推進委員の皆様についても同様に、来月に推進委員会が開催されるので、こういう御意見をいただいて、このように反映している、あるいは県はこのように考えていると公表することとしています。

一般県民のパブリックコメントについては、意見の反映結果を整理して、やはり同じように公表するようにしています。

福崎委員 公表とは、県のホームページか何かで広く公表されるのか、それとも限定された団体だけに公表するのでしょうか。

工藤おおいた創生推進課長 今のところホームページで公表するのは、パブリックコメントに関するものと思っています。そこは特段、今の

時点で市町村やビジョン推進委員、それから県議会の皆様からの御意見を整理して、ホームページで公表するイメージはちょっとないんですけれども。

福崎委員 県の公表の考え方は分かったんですけど、我々県議会、この総務企画委員会としては、まち・ひと・しごと創生大分県総合戦略でわざわざこの委員会を開いている。どのような意見が出て、どのように反映されたのかと。それなら、反映されていない意見はどういう考え方で反映されなかったのかは、やはり知るべきことなのかと思うんですね。

県議会には各市町村の選挙区から出てきているので、例えば自分の選挙区の市町村がどういう意見を出したのかを知って、今後の議会活動、議員の質問などで、いかされていない意見をどうやっていかしていくのか、整理して今後どう発展させていくのが大切になるかと思うんですね。そのことができて初めて、このまち・ひと・しごと創生大分県総合戦略も、やっぱり全体が一つとなって実現に向けて進んでいくのではないのかと私は思うので、できれば県議会には、各団体から出た意見の内容については、考え方も含めてお示しただけならとお願いしたいと思います。

麻生委員長 それぞれの市町村から当然選挙区の議員には（「行っているでしょうね」と言う者あり）しっかりと。それぞれの議員の活動の質も求められているので、是非そういうことも考慮しながら、いずれにしても情報共有しながらやっていければと思っています。今の御意見はしっかり受け止めて、何らかの方法で共有できればと思うので、よろしくお願いします。

ほかにありませんか。

佐藤委員 今日は意見の反映とのことで、今しがた、文言修正をいろいろいただきました。これは当然そうですし、こういう計画の部分に関してはそうなるのですが、例えば今回いろんところから意見をいただいて、本来こういう計画があつて、その下の細部の事業まであるのかという問題もあるんですけども、実際の意見があつて各担当課の中から、その意見を

踏まえて、こういう事業を新しく考えていこうというのは、今からなのかもしれませんが、現在それが出てきているところがありますか。

工藤おおいた創生推進課長 本当に意見というか、やっぱり要望みたいなものが多いんですね。委員がおっしゃるように、こういうことをやってほしいとか、こういうところをもっとやってほしいと。ただ、余り具体的なものはありませんが、やはり年末年始のタイミングなので、来年度予算に直ちに反映できるかということ、タイミングとしては無理なんですけれども、そういう声があることをしっかり関係部局には伝えているので、今後またその施策をすとか取組を進める上で、参考にさせていただこうと思っています。

佐藤委員 多分、事業にするのは今の段階でほんと出てきたのは無理だと思うんですけども、今後そういう意見を踏まえて、やはりそういう考え方がありますから、そちらに沿った事業を組み立てていただければと。それが計画に対する反映じゃないかなと思っているので、よろしくお願いします。

嶋委員 アルファベットやカタカナ語の分かりにくい表記については、巻末に用語解説を設けるとのことでしたが、用語解説はどのぐらいのボリュームですか。

工藤おおいた創生推進課長 ボリュームは特にこれと考えていないんですけど、やはりアルファベットとか片仮名とか、一般的に分かりにくいもの、大分県長期総合計画では注釈を入れています、そのレベルでは丁寧にやっていきたいと思っています。基本的にはアルファベット三つのものは必ず巻末に載せる、そんなイメージは持っています。

嶋委員 教育のESDですけど、持続可能な開発のための教育なんか、こんな短い文言なので括弧で説明してあげればいいんじゃないですか。いちいち巻末を見ないといけないようなことじゃ非常に県民に分かりにくいとか。分かりやすいのが一番なので。いかがですか。

工藤おおいた創生推進課長 そうですね、アル

ファベットを単純に日本語に言い変えるだけじゃなくて、その取組の思いや背景は少し丁寧に説明した方が分かりやすいのではないかなど。どうしてもアルファベットの日本語にすると、単純に和訳してしまうだけで、意味が少し分かりにくいのではないかと。ちょっと煩わしいとは思いますが、巻末で丁寧に説明したいと考えています。

嶋委員 丁寧に説明しなくては分かりにくいものと、教育のこんな少ない文字数で説明ができるものと、使い分けたいかがですか。

麻生委員長 ただいまの嶋委員の質疑に対して再度答弁を。

工藤おおいた創生推進課長 そうですね、その線引きを巻末がいいのか、本文で和訳がいいのか、それってなかなか線引きが難しいかと思っ

ているので、基本的にはやっぱり巻末で。今の御意見をいただいて、本文でアルファベットの出てきたときに和訳をして、あわせて巻末にも入れる形もあるので、ちょっとそこは考えたいと思います。

嶋委員 そんなに難しく考えなくてもいいので、よろしくをお願いします。

守永委員 今の質疑に関連しますが、ここで2ページに説明しているESDの日本語表記、持続可能な開発のための教育というのは日本語表記なんですけれども、このESDだけを捉えたときに、巻末の用語解説がどのレベルで表現するつもりなのかが示されると、ああ、なるほどなと思うんですが。

工藤おおいた創生推進課長 長期総合計画では、ESDについて、やっぱり巻末に解説を入れているんですけれども、そこで書かれているのは、持続可能な開発のための教育の略ということで、持続可能な社会の実現を目指し、一人一人が世界の人々や将来世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育だと。このくらい解説するようにしたいと思います。

守永委員 そういう解説であれば用語解説を入れることが理解できると思うので、そういうふうに。その方が丁寧だと思うので、よろしくお

願いします。

麻生委員長 ほかにありませんか——岡野委員。

岡野委員 ありがとうございます。この重点課題に、今回は要望等があったことへの文言修正なんですけれども、ちょっと一つ気になっているのは、特に地方創生に関する中の重点課題に外国人など多様な人材の活躍・定着による担い手の確保で、地域おこし協力隊全国トップクラスの定着率の維持と入っているのは、これは何か理由があるのかなと思って、教えていただけますか。

工藤おおいた創生推進課長 やはり若者とか女性の移住・定着という中で、地域おこし協力隊は、やはりその地域を好きになって大分県に来ていただいて、それが御縁でその後も大分県に居てほしいと。大分県は九州で2番目、全国で9位の定着率があるので、そこをしっかりと維持していきたいとの思いで書いています。

岡野委員 ありがとうございます。実は、まだまだこれから移住者を増やしていこうとする中で、どうしても企業とのマッチングができずに起業の方を促進するとなかなかうまくいかないといった話を伺っているので、是非ここに入れているのであれば、そういったところも施策に盛り込んでいただければと思って発言しました。

麻生委員長 阿部副委員長はよろしいですか。

阿部副委員長 特にないんですけど、ただ、総合戦略を実行するにあたって、県が策定しますが、各市町村がどれだけついてくるかと。私の地元の杵築市も今、これから新たな総合戦略を策定中で、これは県の総合戦略に準じていると思います。ですから、これからやろうと思うんですけど、いかに市町村が一緒になってこれを推進できるかが一番大事なところだと思うんですけど、それをどうやって一緒になって進めていくかは、ここにおおいた共創会議で各市町村と一緒に書いてあるけれども、そこら辺は本当に、市町が一緒について来ないと実効性がないと思うんですね。そこら辺をどう考えているのか。

工藤おおいた創生推進課長 阿部副委員長のおっしゃるとおりで、県だけでは地方創生は進め

ていけません。

それで、おおいた共創会議の下部組織に幹事会があります。おおいた共創会議の本体は知事と市町村長で、年2回ぐらいしか開かないんですけど、その下に県の関係課長や市町村の関係課長、主幹課長で構成する幹事会があります。最近は開かれていませんが、少しそういう場を使う。

あと、折しも石破総理大臣は地方創生2.0ということで、また心機一転、力を入れていくことになるので、我々も幹事会の場とか、今回、県が戦略を改定しますが、県内の18市町村はみんな戦略は持っています。ただ、同じタイミングで改定するのが10程度あるので、改定して、それを実行することが大事だと思っています。幹事会の場などを通じて一緒に取り組んでいきたいと思っています。（「是非そのようにお願いします」と言う者あり）

麻生委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

麻生委員長 じゃ、私から。今回のまち・ひと・しごと創生大分県総合戦略、第3期ということです。第1期、第2期と、今週の日経新聞で特集を組まれて指摘されているとおおり、もともと全国的にコンサルとかに委託してしまって、全国同じような形で地域の当事者の主体性がない。あるいは当事者意識や危機意識が欠けている中で、何かうまくいっていなかったとの指摘があります。そういったものに対して、今回の第3期総合戦略、長期総合計画があって、第3期総合戦略があって、これからいろんな実行プランを立てていくわけです。これは非常に重要になってくるかと思うんですが、そういう意味で今回は外部委託をどのような形でやって、関係性がどうなったか。地域の主体性を重視する戦略構築にあたって、どれほど参画をしてきたか。さきほど多少報告はいただいたけど、そういった視点について、特別に報告することがあれば、いただきたいと思います。

要は今回の策定過程が重要な中で、特に何かこういうことがあったのかも、あれば教えていただきたいと思います。

それから、移住受入競争や安売りへの反省の指摘があったかと思います。消費者とか旅行者にとって、正しくこれまでの戦略は安売り競争だったとの指摘もあるので、そういった部分について、今回どのような視点で戦略に落とし込んだのか。

それから、地域からの輸入や輸出の代替促進に注力しなければならないけれども、そういった部分をどのように落とし込んだか。

また大分県は特に東九州で一番、移動時間や費用削減の交通網充実を急がなければならないくて、かなり期待はしていますけど、もう一歩も二歩も踏み込んだ具体策が必要だということが指摘されている中で、どのような考えがあるかという部分。

それと一番重要なのは、やっぱり人口減少の中で、余りここを踏み込んでどうなのかなと思いますけど、晩婚化が非常に大きな現実だろうと思います。この晩婚化に対して今後、若年結婚を支援するとか、あるいは選択肢に増やしていけるよう施策をやっていかなければならない。もっと言うと、先日も申し上げたように延命治療よりも、こういった若年結婚を支援する施策、政策に置き換えるようなこと。そのために人生会議をやって、人生会議は条例化までしたけれども、本当に機能しているのかどうか。実践率を含めて、そういったことが延命治療の費用の削減になって、そのコストを若年の結婚に支援していくところまで結び付く戦略になっているのかが問われていると、このような認識を持っているので、そういった部分についてもお答えいただければと思います。

それと私が以前から言っているように、これまでの施策として、いわゆる交流人口の部分で、大都市から大分へという2拠点居住はよく言われるんですが、さっき言った消費者とか旅行者とか、移住者の安売りにすぎないわけです。大分県内の拠点都市に住んでいる方が、周辺部の過疎と言われている地域と2拠点居住をする交流人口は、一番現実的で実効性の上がることだろうと思います。そういった部分の視点が抜け落ちてないかと思うんですね。県外から来れば

人口増になるとか、短絡的な安売りにすぎないことを指摘したいと思うんですが、その2拠点居住の部分、どこかに記載があるかなど。ちょっと見つけられなかったから、その点についても伺います。

工藤おおいた創生推進課長 たくさんいただいたので、ちょっと私が答えられるのがどこまであるかと思うんですが、地域の主体をどう絡めているかです。まず、この戦略については外部委託は一切していません。我々で作っています。

地域の主体への意見ですが、基本的にこの戦略は新長期総合計画をベースにしている、新長期総合計画では有識者からなる会議とか、地域別部会で意見をいただくとか、高校生のアンケートを取るとか、丁寧に県民から意見をいただいて策定しているので、主体となる地域の皆さんの声はしっかり聞いていると考えています。

それから順番は前後しますが、2拠点居住で委員長が大分市とその周辺部なのは分かるんですが、それを県が政策として推進してしまうと、逆に周辺部に住んでいる方が大分市に住んで、週末に周辺部に住みたい、そっちが加速するおそれがあるんじゃないかということで、なかなか踏み込めないかなど。

それと晩婚化対策、若い方の結婚は本当におっしゃるとおりで、とにかく出生数が減っているのは晩婚化と、それから結婚しないのが大きな要因です。福祉保健部では出会いの場を力を入れており、来年度は地域ごとに婚活の場を設けて、地域でそういう出会いの場をつくっていくと聞いているので、その対策は大変重要だと思っています。

それから、東九州の交通インフラの整備は大変重要なことです。この戦略にもしっかり書いています。ただこの戦略が5年間なので、余り踏み込んで5年後にこうなっているとは、なかなか今の記述より踏み込むことはできない。やはり時間のかかるものではないかと考えています。

それから輸出が大事とのことで、それはおっしゃるとおりです。コロナ禍も明けて、インバ

ウンドも増えているので、県外に販路を求めていくのは、この戦略の中にしっかりと書いています。

それから移住受入競争、ゼロサムゲームで国内で人を取り合うみたいになっているんですけど、そうはいってもやっぱり人口が減少する中で、そこを抑制するのは自然増、とにかく出生数を増やすか、あるいは外から人に来ていただくしかなくて、そこはやはりやらざるを得ないと思っています。みんながやめればいいのですが、どこかがやれば負けられないとなるのだと思っています。

委員長、そんなところでよかったですか。

麻生委員長 ありがとうございます。私が言った2拠点居住について、大分市と周辺部という捉え方を今されたんですが、そうじゃなくて現実問題としては、例えば耶馬溪地域と中津市とか、あるいは佐伯市とその周辺部とか、そういう拠点都市。それぞれの地域、例えば日田市と津江地域の2拠点居住、大分市とその周辺部とか、別府市とその周辺とか、拠点都市とその周辺部の割りと近いけれども、交流をもっと促進できるような、そういった意味での2拠点居住については、やっぱり戦略的にしっかりと。

今回、冒頭で市町村との協議をするといった、一番実態を分かっている市町村の関係者、その地域の関係者は、その地域が限界集落で消滅してしまうという危機感を持っているんですね。だから、取りあえずそういった限界集落、消滅集落とならないためには、まず一番可能性のある人は誰かといったら、出ていっているけれども、例えば野津原でも今市の上の方に暮らしていた人が、今は野津原の街の方で暮らしているといった、そういう地域がいっぱいあるわけです。そういう人をどう両方で、維持機能を含めて交流人口の中で活躍していただくかといった視点が、この戦略には抜け落ちているんじゃないかと。そういう意味での2拠点居住が重要じゃないかと。

ただ単に、県外から移住者が来ました。何人増えました。でも、何年かしたらまた戻ってしまったことはいっぱいあるわけですよ。

ら、そういった意味で安売りし過ぎるんじゃないかとの指摘を含めて、どんな議論があったのかと。本当にそこまでの議論があったのなら、この戦略はそれなりの主体性とか当事者意識とか危機感を持った良いものだと思うけど、まだそこまでいっていないんじゃないかと指摘しておきたいと思います。そういう認識でやっていただければと思います。これからは具体的な施策を落とし込んでいく中で、とても重要なことだと思うので、そこは強く要望しておきたいと思います。

委員の皆様方から、この際ですから何かありませんか。（「今に関連していいですか」と言う者あり）

守永委員 今、麻生委員長が指摘した部分で、さきほど工藤課長から、2拠点居住を進めることで、多い方から少ない方に動くこと以上に、少ない方から多い方に移動してしまっ、あとは、両方の拠点を基にやっていけばいいやという、少ない方からさらに出ていくのを加速すると悪いなという話がありました。けれども、政策的に、多い方から少ない方への動きに対して後押しする姿勢を示すことで、そのために考えているんだと多くの県民に理解してもらうのが大事だと思うんですね。

この事業を活用すれば、都会に住んで田舎に帰るなみたいな、そういった発想になってしまうと確かにそうになってしまう。やはり都会に住む人は学校があり病院があり、そういう生活環境が整っているところで子どもを育てたいとの思いがあるから、そっちに移動してしまう。それじゃ田舎は、そこに通うために田舎から都会に出ていかなきゃしょうがないとなってしまうと、地域全体に等しく住むことにならないので、その辺の環境整備も含めてどう整えていくかが、これから大きな課題になってくると思うんです。経営の健全化も含めた中で、そういったのを具体的な事業を起こしていくときに意識していただければと感じました。よろしくお願ひします。

麻生委員長 とってもいい、分かりやすく説明をいただいたと思います。

具体例で言うと、野津原の若妻の店の若妻の

皆さんは、大分市内、例えば明野とか、わさだタウンの店舗で働きながら、野津原の調理場に逆に働きに行っている。そして、両方で活動しているところが最近いっぱい出てきていると思うんですね。

私はもともと出身が由布市の庄内町ですから、昔は朝夕のラッシュは大分市に向かって皆さん行っていた。帰りはその逆だった。今、その渋滞状況が全く逆になっているからね。朝夕は大分市に向かう人の数よりも、大分市から周辺部に国道210号で出ていく人の数の方が増えている。これが別大国道にしても、どこにしても、意外と知られていない事実だろうと思うんですね。そういった現実を受け止めて戦略を練ることも大事ではないかなと思うので、そのことも指摘しておきたいと思います。

そういった流れの中で、具体的にどういう政策を落とし込めばいいかというのは、皆さん一緒になって考えていく必要があるかと思うので、これはポイントだろうと思います。

それではほかに、この際ですから。皆さんの御意見は、よろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

麻生委員長 それでは、今後の第1回定例会までに、素案を最終的な成案にして、議案として提出するまでのスケジュールと、幾分修正ができる範囲というか、重要な部分について何か考え方とか、その後のプランの方で対処するとかいったことも含めて、執行部側の今後のスケジュール感について説明いただけますか。

工藤おおいた創生推進課長 私の認識では、今日の委員会の中で、特にこの本文に対しての修正意見はなかったと思いますので、お手元にある素案がこのまま第1回定例会の上程議案になると考えています。

スケジュールですが、他の議案と同様に粛々と、議案としてスケジュールにのっとり進めていきたいと考えています。

麻生委員長 ありがとうございます。そういうことですので、それに対して皆さんから特に何か要望や御意見はありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

麻生委員長 それでは、戦略は戦略として、それを実効性が上がるようにするため、その後の各部局ごとのプランの作成とか目標設定、進行状況とか、それに伴う事業化や予算化について、今回出された地域の意見をしっかり受け止めながら、第3期まち・ひと・しごと創生大分県総合戦略が機能を発揮して、人口減少に歯止めがかかり、そして大分が元気になると。それで豊かさを実感できるような形に持って行っていただくようお願いしたいと思います。

それでは、これをもって本日の委員会を終了したいと思います。皆さんよろしいですか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

麻生委員長 それでは、これにて終了します。皆様、お疲れ様でした。